現在世界の災害は、８割が洪水などの水関連、そして４割がアジアで生じている。予想される南海トラフ地震に、今後どう準備（Prevention ＆ Prepardness）を進めていくべきかや、また宇宙のゴミは25万個と将来の宇宙での災害の講演もあった。

教育講演の「温故知新」では、長崎県島原病院の徳永能治病院長が「雲仙普賢岳大火砕流災害での医療対応を振り返り」で、1991年６月３日の大規模火砕流について講演された。気道熱傷を含む広範囲熱傷による重症被災者が搬送され、救命例はわずかにとどまったが、職員一丸となって17名を受入れ、混乱の中で早期処置や転送を含めた処置を行ったことが紹介された。このことが、その後の、重症患者の分散搬送（ICU収容数には限界があり、熱傷時の災害ネットワークの確立）へとつながった。

日本では、2014年の御嶽山噴火があるが、最近では2019年12月９日のニュージーランドのホワイト島で発生したマグマを伴う火山の噴火で、重度熱傷などで17人が死亡している。また2020年１月12日にはフィリピンの首都マニラの南約70キロにあるタール火山のマグマの噴出が報告されている。北海道でも、有珠山噴火（2000年）から20年経過した。この噴火では、有珠山周辺地域の住民が噴火前に全員無事に避難できたのも、地震などから噴火を予測できたためであるが、現在でも噴火の時期を正確に予測することはできない。

そのほか、北海道胆振東部地震のBlack outで経験したように、電気が来ないと情報を伝え合えないこと、透析における大量の水道水や電気の安定した供給の問題が討議された。臨場感がある５Gを使用してのバーチャル・リアリテイの災害訓練の紹介もあった。開場前の広場には近隣の災害拠点病院からDMAT車両が展示されていた。

COVID-19関係では、CTの有用性や不顕性感染などが報告され、活性化O_2を水素が除去するため、消毒に水素は災害にも役に立つとの講演があった。また学会中、新型コロナウイルスの流行で、ダイヤモンド・プリンセス号へ、厚労省の依頼を受けて搭乗した政府職員などが感染し、病院でのバイキン扱いや家族への差別などがあり、学会中に日本災害医学会として「新型コロナウイルス感染症対応に従事する医療関係者への不当な批判に対する声明」が出された。その後のCOVID-19は、クラスター（小規模な集団感染）、オーバーシュート（爆発的患者急増）、ロックダウン（都市封鎖）また途上国のサイレント感染がキーワードになっており、世界的なパンデミックとなっている。

終わりに

学会前日の拡大評議員会を兼ねた神戸港クルージングは、COVID-19の感染拡大のため急きょ前日に中止された。本学会以降の日本循環器学会、日本集中治療医学会など、すべての日本の学会が中止され、東京オリンピック・パラリンピックの開催も翌年に延期された。次回は、来年３月15日（月）～ 17日（水）に、国際医療福祉大学の石井美恵子教授（東京都）で開催予定である。

お知らせ

第54回北海道ドクターズゴルフ大会 延期のお知らせ

令和２年７月５日（日）にアンビックス函館倶楽部にて開催を予定していた第54回北海道ドクターズゴルフ大会につきましては、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係る感染拡大防止と参加者の健康・安全を考慮した結果、開催を延期することといたしました。

次回大会は、函館市医師会の担当で令和３年７月４日（日）に開催を予定しておりますので、ご案内申し上げます。